

環境大臣賞 石橋文化センター“憩いの森”基本構想 “文化と芸術の香りが漂う 癒しの森”

企画者：財団法人 久留米文化振興会／久留米造園建設業協同組合

評価点：市街地の中心にあり文化施設等を有する公園の芝生広場に、クルメツツジ、ニオイバンマツリ等の樹木・草花 2,577 本を植栽する企画である。平成 22 年3月に同公園で開催される「国際ツバキ会議」・「全国椿サミット」と連携し、地元で生産が盛んなクルメツツジ、ニオイバンマツリを中心とした芳香木とその他の花木を組み合わせることにより、季節の香りが感じられ、開放的な木漏れ日のある“癒しの森”を創造しようとする点などが評価された。

環境大臣賞

■みどり香るまちづくり企画コンテスト

石橋文化センター“憩いの森”基本構想

■テーマ “文化と芸術の香りが漂う 癒しの森”

◆申請団体
財団法人久留米文化振興会
◆共同企画団体
久留米造園建設業協同組合

■コンセプト：“癒し空間の創造”

- 樹木による気・心のストレス防止・抑制
樹木から発する色彩や香り、触覚・味覚・ささやきなどは、人間の精神的・肉体的疲労を鎮静し、日常のストレスを癒す効果があります。
- 「香り」をテーマとする個性的な空間づくり
「憩いの森」の周辺には季節の「花」や「紅葉」などをテーマとする園地が多く、「憩いの森」には、「香りの樹木」をテーマとする「美」と「香」が融合する「癒しの空間」を創出します。
- 「国際ツバキ会議」「全国椿サミット」と「憩いの森」の連携開催
久留米市では、平成 22 年 3 月に隣接する「椿園」を主会場として「国際ツバキ会議」と「全国椿サミット」が開催されます。「美しいツバキ」と「多種多様な芳香木」による「癒し効果」を複合し効果を高めます。
- 植木生産地として「芳香木」の情報を展示
九州の植木生産地のイメージアップを図り、香りが良好で芳醇なキンモクセイ等の他、増量生産している「ニオイバンマツリ」等を多用します。大会を機に、「植木生産地久留米」を全国にアピールします。
- テーマ：“文化と芸術の香りが漂う 癒しの森”
文化施設やツバキ園に隣接する芝生広場に散策路を回遊し、所々に芳香木や花木を機能的に配置することで、ゆっくりと時間が過ぎる空間を創造します。豊かな香りと四季折々の花々が来園者を日常ストレスから開放してくれる「癒しの空間」になります。

■香りの空間計画

- 香りを感じる空間づくり
四季折々の香りのエッセンスを放出する樹種を主に配植し、その間に花や紅葉の特色のある樹木や草花等を、複層・混在し季節ごとの香りを大きく感じる空間を演出します。
- 芳香木と花木の組合せによる景観づくり
植栽は芳香木を主役に花木や紅葉樹で補います。賑わいと安らぎの空間とするために、広場入口や散策路の分岐・屈折点、また休憩施設周辺に配置します。園路の“線(シーケンス)”と“点(ランドマーク)”を組合せ、芳香木と彫木が混在する独自の景観を創ります。
- 市民が香りに親しむ情報展示づくり
「憩いの森」で使用する芳香木や花木は、市民が自宅でも植栽したくなるような展示演出を行い、樹種名や樹木の情報を名札で表示し、緑化推進の啓発を図ります。
- 開放的な木漏れ日のある空間づくり
「憩いの森」は森に囲まれた静寂な環境を有しており、周辺の雑音を緩衝する密度の高い遮蔽植栽とします。また、内側は既存の高木に新規の低木や草花を配植し、木漏れ日が差し込み、見通しのよい安全性の高い空間をつくります。

■「国際ツバキ会議」「全国椿サミット」開催

久留米市では、筑後川や耳納連山、筑紫平野等の豊かな自然環境を生かして、平成 22 年 3 月に、この石橋文化センターをメイン会場に「国際ツバキ会議」と「全国椿サミット」が同時開催されます。国際交流、市民交流を通じて、花木・緑化木の産地としてのイメージアップを図ります。計画地には、ツバキの葉の変種が見られ、葉の先端が金魚の尾に似ていることから「金魚ツバキ」と称しています。



●ヤブツバキ



●金魚ツバキ

■空間の演出効果(香植物と花植物のコラボレーション)

香りの効果は、嗅覚と視覚の情報を得て、心を安定し、精神的疲労を回復することができます。人間が対象物を判断するには外部からの情報を「目(視覚)」「耳(聴覚)」「鼻(嗅覚)」「舌(味覚)」「皮膚(触覚)」の五感を通して受けとり分析します。判断材料の中でもっとも重視しているのは視覚で約 80 パーセント以上といわれています。料理の味は食材の味よりも膳の盛り付けでその美味しさが判断されるのと類似しています。このように静けさや安らぎの空間をつくるためには、樹木や草花の花や葉の形や色の役割が大きく、花木を主に配植し、香りを放出する植物を 20 パーセント程度加えることで、利用者は香りの空間で安らぎを得ることが出来ます。



■ニオイバンマツリ(匂葉茉莉)

ニオイバンマツリは、南米原産のナス科の半耐寒性常緑低木です。花径は 2~3cm ほどの花ですが、花付きがよく株を覆うように咲きます。花の色が、紫~淡紫~白色に変化し、ジャズミンに似た芳香を持つところから、この名前が付いています。ニオイバンマツリは、花の変化により、青紫花と白花が一本の木に混合して咲いているように見えますが、実は最初に青紫色の花が 1 日~2 日経つにつれ白色に変わるためです。白くなった花は、その後、落花します。



■新規樹種の生産「クルメツツジ」から「ニオイバンマツリ」へ

久留米市の植木生産者は、「クルメツツジ」を開発し全国的な花木として広めた実績がありますが、近年ではクルメツツジを追随し「ニオイバンマツリ」が盛んに生産されています。ニオイバンマツリは、香りの強さや花色の変化が特徴的で、植栽する場所やその他の樹木との組合せにより、「わび・寂び」の上品さや優雅さ、また「エレガント」で華やかな雰囲気演出することができます。生産量についても増加傾向にあり、ニオイバンマツリが第二のクルメツツジとして、全国に広がっていくことを願っています。

■樹種の選定

樹種は北部九州の内陸気候に適する樹種を前提に選定します。強い香りや独特の匂いのする樹種、並びに花色や新緑・紅葉の美しい樹木を選定します。また、久留米植木業界で主力の芳香木や新商品の芳香木を積極的に使用し利用者へアピールします。

- 高木性樹木：コブシ・サルズベリ・エゴノキ・ハナミズキ・ヤマボウシ など 9 本
- 中木性樹木：キンモクセイ・カラタネオガタマ など 12 本
- 低木性樹木：ニオイバンマツリ・ジンチョウゲ など 671 本
- 草本類：アガパンサス・ラベンダー・スイセン など 1885 本



■花と香りの暦(こよみ)

使用樹種、草本類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	本数
エゴノキ													2
ハナミズキ													2
ヤマボウシ													2
コブシ													1
サルズベリ													2
キンモクセイ													2
ヤブツバキ													2
ムラサキハシロイ													3
カラタネオガタマ													11
シャクナゲ													2
ロウバイ													3
クルメツツジ													50
ジンチョウゲ													60
クチナシ													60
サルココッカ													290
ニオイバンマツリ													200
フィリヤブラン													230
ラベンダー													190
アガパンサス													180
フィリツツブキ													85
ハナニラ													230
スイセン													260
フロックス・マキュラータ													50
ムスカリ													50
シャガ													280
シラン													60
フィリキボウシ													250
カンナ													20



■主な使用樹木、草本類

